

市民事業交流会 (中間報告会) を開催しました

県では、水源環境の保全・再生に取り組む市民団体の皆様を支援するため、補助金制度を平成20年度からスタートしています。

この度、平成21年度活動状況の中間報告を行うとともに、市民団体相互のネットワークづくりを通じた市民事業の拡大・拡充を目指して、交流会を開催しましたので、その結果をご報告します。

【開催概要】

- 日時 11月6日(金) 13:30～16:30
- 会場 プロミティあつぎ A・B会議室
- 参加者 39人
- 内容 第1部 活動状況報告
第2部 グループワーク
- 主催 水源環境保全・再生かながわ県民会議
市民事業専門委員会

第1部 活動状況報告

第1部は、平成21年度補助事業者の方から、現在取り組んでいる活動について報告いただきました。

どの団体も活発に活動をしており、会場の参加者から活動内容についての質問が数多く寄せられました。

【報告団体一覧(9団体)】

区分	団体名	主な活動場所
特別対策事業	① NPO法人 しのくぼ	大井町篠窪地区
	② NPO法人 自遊クラブ	相模原市津久井町三井地区
	③ NPO法人 丹沢森の仲間たち	南足柄市荻野地区
	④ なかい里山研究会	中井町鴨沢及び井ノ口地区
	⑤ 日本の竹ファンクラブ	中井町及び愛川町
普及啓発・教育事業	① 河川生物研究クラブ	相模川(相模原市内)
	② NPO法人 ふれあいの郷	相模川(相模原市内)
調査研究事業	① ECO Friend College	県内上流域(清川村など)
	② 丹沢森林環境研究所	酒匂川上・中流域



第2部 グループワーク

第2部は、テーマごとに4つのグループに分かれ、参加者相互の意見交換が行われました。各グループともに自らの団体が抱える課題を発表し、情報の共有が行われました。

【各グループの結果報告概要】

グループ1「活動資金の確保」

- ・補助金制度の拡充を図ってほしい
- ・資金確保のためには法人会員の獲得も有効

グループ2「会員・イベント参加者の確保」

- ・各種広報媒体による宣伝、イベント内容の工夫、社会資源の活用、団体同士の相互協力が必要

グループ3「水源の森林整備の手法」

- ・里山・奥山など活用目的に合った整備手法が必要
- ・若い世代の確保による、知識の継承が必要

グループ4「水質調査の手法」

- ・NPO・学生・行政それぞれが担うべき役割がある
- ・調査の継続により、データの信頼度が高められる



補助金の愛称が決定しました！

この補助金制度の正式名称は「水源環境保全・再生市民事業支援補助金」です。漢字ばかりでちょっと親しみにくい名称ですよ。

そこで、この制度がより親しみやすいものになるよう、補助事業者の皆様などに愛称を募集したところ、43件ものご応募をいただきました。その中から、市民事業専門委員会にて5つの投票候補を選考し、交流会当日、参加者の皆様に投票いただきました。

その結果選ばれたのは・・・

もり・みず 市民事業支援補助金 です！

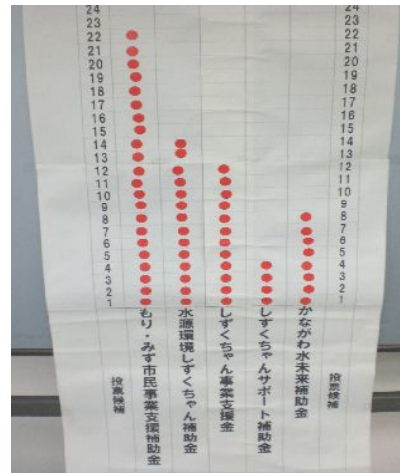
とても親しみやすくなったのではないのでしょうか。

皆様の市民活動の拡充に、この「もり・みず市民事業支援補助金」をぜひご活用ください。

募集スケジュール等は、「しずくちゃん便り14号」をご覧ください。



水源環境保全再生
イメージキャラクター
しずくちゃん



投票結果

参加団体メッセージ

特定非営利活動法人四十八瀬川自然村 氏田 章治 さん

今回、「水質調査の手法について」をテーマとしたグループワークに参加し、各団体が①必要な知識・機器・財源、②実績の発信方法についての相談窓口の必要性、そして特に③より活発に活動するための若い構成員の確保、を共通した悩みとして抱えていることがわかりました。今回の交流により、「次世代へより良い自然環境を」の共通した目的に向い、さらに活動を活発化させる気持ちを新たにしました。

特定非営利活動法人ふれあいの郷 松田 宣 さん

NPOを設立して2年目になりますが、この度初めて市民事業交流会グループワークに参加させていただきました。「会員・イベント参加者の確保」をテーマに、参加団体の方々と普段はなかなか出来ない意見交換もでき、有意義な時間となりました。今回のような交流会での意見、提案は私どものこれからの活動の参考にさせていただき、ぜひ今後も多くの方々に参加していただいで共に勉強できればと考えています。

主催者(市民事業専門委員会委員)メッセージ

林 義亮 さん(神奈川新聞社論説副主幹)

交流会に参加し、日ごろ何げなく利用している「水」を守るために、多くの方が活動されていることをあらためて教えられ、力強く感じました。皆さんの話をうかがって、とりわけ印象深かったのは、「継続」…活動を広げ、次世代に引き継いでいくことの大切さと難しさです。

こうした会合で、思いや悩みを同じにする仲間と語り合う時間の貴重さを実感しました。

増田 清美 さん(県政モニター08会幹事)

活動報告では、団体から「張り切りすぎてすでに当初予定事業をこなしてしまった」との頼もしい報告もあり、各団体が着実に事業を行っている状況がわかりました。

グループワークにおいて出された「長期に取り組める支援をして欲しい」という意見は、今後の課題と言えるでしょう。

また、顔を合わせての話し合いは共通認識も生まれ、繋がりも深くなり、交流会としての成果が見られました。

市民事業交流会 (中間報告会) プログラム

日時：平成21年11月6日（金） 13:30～
場所：プロミティあつき A・B会議室

時間	内容
13:00	開場 受付、ポスターセッション
13:30	開会 あいさつ（市民事業専門委員会委員長 沼尾 波子）
13:35	第1部 活動状況報告 （65分） (1) 特別対策事業（森林の保全・再生事業） ① NPO法人 しのくぼ ② NPO法人 自遊クラブ ③ NPO法人 丹沢森の仲間たち ④ なかい里山研究会 ⑤ 日本の竹ファンクラブ (2) 普及啓発・教育事業 ① 河川生物研究クラブ ② NPO法人 ふれあいの郷 (3) 調査研究事業 ① ECO Friend College ② 丹沢森林環境研究所
14:40	休憩（愛称投票、ポスターセッション）
14:55	第2部 グループワーク (1) オリエンテーション（10分） (2) グループワーク（60分） 団体同士の情報交換や情報共有を目的として実施します。 どなたでも御参加いただけますので、当日来場の方で参加を希望される場合は、受付まで御連絡ください。 【テーマ】 ① 活動資金の確保 ② 会員・イベント参加者の確保 ③ 水源の森林整備の手法 ④ 水質調査の手法 (3) 各グループから報告（20分）
16:25	愛称投票結果発表及び閉会あいさつ （市民事業専門委員会副委員長 萩原 なつ子）
16:30 ～ 17:15	会場にて御自由に情報交換・意見交換を行っていただけます。 事務局による補助金相談コーナーも引き続き実施します。

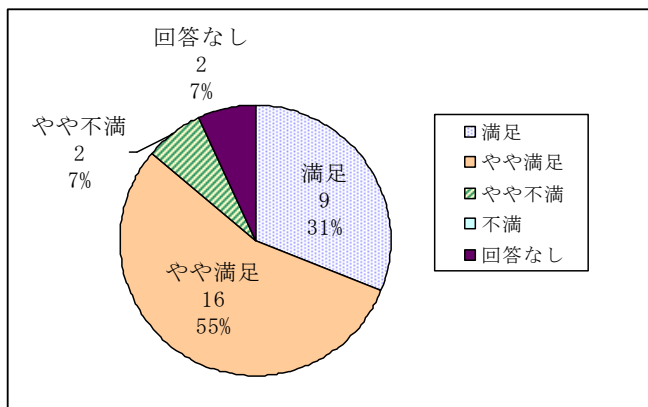
【主催】 水源環境保全・再生かながわ県民会議 市民事業専門委員会
 【問い合わせ】（事務局）神奈川県環境農政部緑政課 水源環境調整班
 電話：045（210）4324（直通） ファクシミリ：045（210）8848

平成21年度市民事業交流会 アンケート集計結果

今後の取組の参考とするため、交流会に参加いただいた方々にアンケートをお願いしたところ、多数のご回答をいただきました。集計結果は次のとおりです。

■回収したアンケート数…29枚（内訳：平成21年度補助事業者 19枚、その他の団体 10枚）

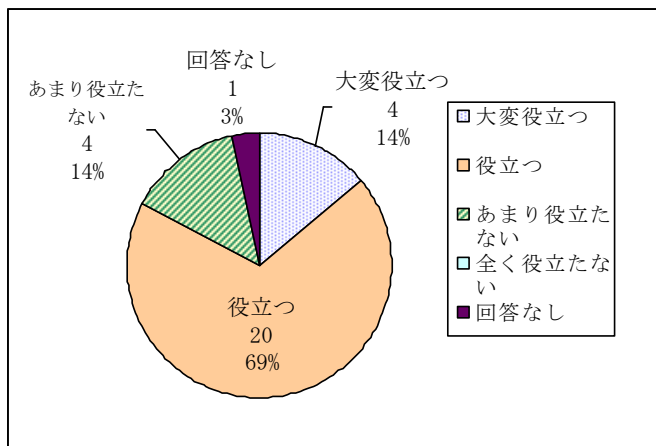
Q 1 本日の交流会はいかがでしたか。



主な意見

- 満足できた点
 - ・いろいろな団体と話し合うことができた
 - ・他の団体の活動の頑張りや素晴らしさを知ることができた
 - ・グループワークが良かった
- 不満だった点
 - ・グループワークの時間が足りない
 - ・活動状況報告の発表数が少なかった

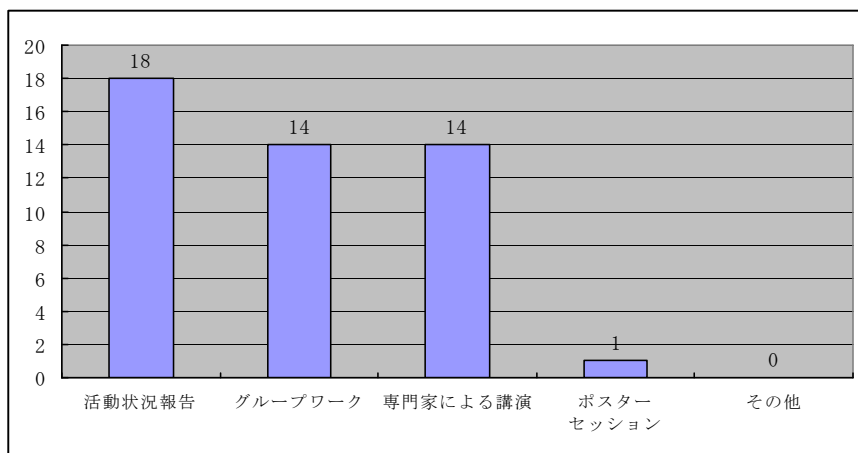
Q 2 本日の交流会は今後の活動に役立ちますか。



主な意見

- 良かった点
 - ・情報交換の場になった
 - ・多くの団体の人達の活動状況を知ることができた
 - ・活動の課題について、解決のヒントをいただくことができた
 - ・グループワークが良かった
- 悪かった点
 - ・グループワークの時間が足りない
 - ・もう少し詳細な報告がほしい

Q 3 今後、交流会を開催する場合、どのような内容を希望しますか（複数回答可）



Q 4 その他、ご意見・ご要望がありましたらお聞かせください。

- ・県民・市民によるワークショップ・グループワークの機会があるのはいいことだと思う
- ・県の考え方を話していただくと良かった
- ・イベント的な交流会だけでなく、日常的に情報交換できる環境を作ってほしいと考えます
- ・広報関係にもっと支援をいただきたい
- ・各団体とも費用負担（収入源）が大きな問題になっているので、補助金の延長を望む
- ・個々の団体同士の交流をもっと表に出した方がよい

水源環境保全・再生かながわ県民会議 活動結果報告

平成22年11月7日に開催した「市民事業交流会（中間報告会）」の内容は次のとおりでした。

名 称	市民事業交流会（中間報告会）														
	市民事業委員	齋藤 光弘、沼尾 波子、萩原 なつ子、林 義亮、増田 清美													
開催日時	平成22年11月7日（日） 13:00～16:30														
開催場所	プロミティあつぎA+B会議室														
出席者	木下奈穂、木平勇吉、齋藤光弘、新堀豊彦、沼尾波子、萩原なつ子、林義亮、増田清美														
参加者	28名														
内 容	<p>1. 主催者あいさつ 増田委員</p> <p>本日の市民事業交流会は、市民活動の状況についての情報交換の場であり、団体相互のネットワークづくりを通じて、交流の促進や市民事業の拡大・拡充を目的としている。皆様の活発な議論を期待する。</p> <p>2. 第1部 活動状況報告</p> <p>第1部は、平成22年度補助事業者の方から、現在取り組んでいる活動について報告いただいた。</p> <p>どの団体も活発に活動をしており、会場の参加者から活動内容や地主との関係性などについて、質問が数多く寄せられた。</p> <p>【報告団体一覧（8団体）】</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr style="background-color: #ffffcc;"> <th style="width: 20%;">区分</th> <th>団体名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">普及啓発・教育事業</td> <td>① 緑のダム北相模</td> </tr> <tr> <td>② NPO法人 山崎・谷戸の会</td> </tr> <tr> <td>調査研究事業</td> <td>① 四十八瀬川自然村</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">特別対策事業</td> <td>① NPO法人 ふじの森のがるでんセンター</td> </tr> <tr> <td>② NPO法人 湘南二宮・ふふさと炭焼き会</td> </tr> <tr> <td>③ NPO法人 伊勢原森林里山研究会</td> </tr> <tr> <td>④ 森のなかま</td> </tr> <tr> <td>⑤ 海老名里山づくりボランティア山仕事の会</td> </tr> </tbody> </table> <p>3. 市民事業等支援制度評価について 沼尾委員</p> <p>○団体の皆様へ制度評価のアンケートを送付させていただくとともに、いくつかの団体についてはモニターにお邪魔し、直接、制度への意見を伺ってきた。</p> <p>本日、グループワークというせっかくの機会なので、皆様の活動を活性化するために、それぞれの団体が行っている工夫や、どういった支援があればよいか、ということ情報を共有しつつ、議論していただき、交流を図ってほしい。</p> <p>4. 第2部グループワーク</p> <p>第2部は「市民事業を活性化するため～団体の自主的活動の活性化と公的支援への期待について～」というテーマで、萩原委員の講話の後、3つのグループに分かれ、参加者相互の意見交換が行われた。</p> <p>（萩原委員）</p> <p>○税金を使っているので、透明性の確保や説明責任を問われるため、手続きが煩雑になりがちである。しかし、民間財団の支援だからと言って手続きが簡単かといえば、そうでもない。</p> <p>○様々な助成金にたくさんトライしてほしい。色々な助成金に申請をすると自分の活動を見つめ直すきっかけにもなる。</p> <p>○情報収集が大切。NPO支援センターなどに各種助成金情報が集約されているので、活用してほしい。申請書が出されることで新たな支援プログラムが出来るきっかけにもなる。</p> <p>○より良い仕組みにしていくために、たくさんの意見を出して欲しい。</p>		区分	団体名	普及啓発・教育事業	① 緑のダム北相模	② NPO法人 山崎・谷戸の会	調査研究事業	① 四十八瀬川自然村	特別対策事業	① NPO法人 ふじの森のがるでんセンター	② NPO法人 湘南二宮・ふふさと炭焼き会	③ NPO法人 伊勢原森林里山研究会	④ 森のなかま	⑤ 海老名里山づくりボランティア山仕事の会
区分	団体名														
普及啓発・教育事業	① 緑のダム北相模														
	② NPO法人 山崎・谷戸の会														
調査研究事業	① 四十八瀬川自然村														
特別対策事業	① NPO法人 ふじの森のがるでんセンター														
	② NPO法人 湘南二宮・ふふさと炭焼き会														
	③ NPO法人 伊勢原森林里山研究会														
	④ 森のなかま														
	⑤ 海老名里山づくりボランティア山仕事の会														



実施状況報告の様子



報告に耳を傾ける参加者

内 容
(続き)

【各グループの結果報告概要】

(第1グループ)

- 会員が専門知識をもつための支援
- 助成金が100%ではなく50%というのは不満
- 限度額50万では購入できない機器もあり、共同購入・使用を検討してほしい
- 支払形態(事業が終わってからでないと支払われない現状)
- ボランティア保険の対象(山仕事)としてもらいたい
- 県のたより等による、県との連携した広報の実施
- 流域の石垣の崩壊対策についても補助対象にしてほしい
- 団体のリーダーとなれる人の育成

(第2グループ)

- 後継者の育成・資金確保・行政との連携が大きなテーマ
- 学校と連携した活動で、若手人材の確保
- 助成金の一覧(県全体)を示してほしい
- 機材メンテナンスに対する助成の実施
- 補助金の使用目的範囲がせまい
- 行政の横のつながりを強化してほしい
(子育て部門・環境部門や市町村等と問題意識の共有を図るべき)
- 企業とのパイプ役として、行政に介入してほしい
- ボランティア=無償という意識を見直してほしい

(第3グループ)

- 人材の確保(特に若手)
- 団体の指導者育成のための有資格者制度、コーディネーターの制度を県がつくる
- 県が技術指導の出前講座を各団体に問い合わせたらどうか
- 審査対象の枠を広げてもらい、活動内容を深めたい
- グループワークの時間を増やしてほしい(2部制に)
- 補助金についての相談窓口になる市町村職員を指導してほしい
- 事業の継続的・長期的な支援制度を
- 団体の人件費の確保
- ソフト面の支援の充実を(各団体の事情を聞いて幅広く支援)
- ネットワークの構築にかかる費用の支援(団体HPなど)
- 財源の継続した支援(啓発・教育事業への補助率低い)

5. 閉会あいさつ

(萩原委員)

- 複数の資金源を持つことが大切。そのうちの1つとして、この補助金を利用すべき
- 行政の縦割りをなくすために、他部署との連携を図るべき。例えば、若手の参加の促進には、ワークライフバランスの確保が必要。
- 団体はそれぞれ忙しいだろうが、各団体で戦略的にネットワークの構築をしてほしい。
- LLC(有限責任会社)という形態で、お金をNPOに渡す地域づくり団体もあり、資金確保の手段は多々ある。情報収集をしてほしい。
- 神奈川県は支援センターが充実しているため、積極的に使用するとよい。



グループディスカッション風景



グループ結果報告



閉会あいさつ

市民事業交流会（中間報告会）プログラム

日時：平成22年11月7日（日） 12:30～
場所：プロミティあつき A・B会議室

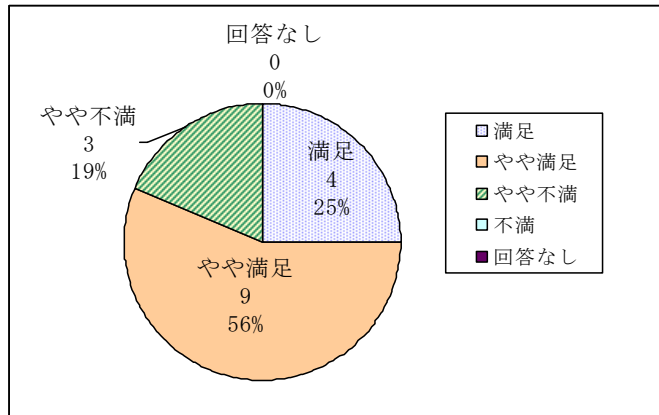
時間	内容
12:30 ～ 13:00	開場 受付、ポスターセッション
13:00 ～ 13:05	開会 あいさつ（市民事業専門委員会委員 増田 清美）
13:05 ～ 14:15	第1部 活動状況報告（70分） (1) 普及啓発・教育事業 ① NPO法人 緑のダム北相模 ② NPO法人 山崎・谷戸の会 (2) 調査研究事業 ① NPO法人 四十八瀬川自然村 (3) 特別対策事業（森林の保全・再生事業） ① NPO法人 ふじの森のがるでんセンター ② NPO法人 湘南二宮・ふるさと炭焼き会 ③ NPO法人 伊勢原森林里山研究会 ④ 森のなかま ⑤ 海老名里山づくりボランティア山仕事の会
14:15 ～ 14:30	休憩（ポスターセッション）
14:30 ～ 14:45	市民事業等支援制度評価について
14:45 ～ 15:05 ～ 16:05 ～ 16:25	第2部 グループワーク (1) 講話及びオリエンテーション（20分） (2) グループワーク（60分） 団体同士の情報交換や情報共有を目的として実施します。 どなたでも御参加いただけますので、当日来場の方で参加を希望される場合は、受付まで御連絡ください。 【テーマ】 市民事業を活性化するため ～団体の自主的活動の活性化と公的支援の期待について～ (3) 各グループから報告（20分）
16:25 ～ 16:30	閉会あいさつ （市民事業専門委員会副委員長 萩原 なつ子）
16:30 ～ 17:30	会場にて御自由に情報交換・意見交換を行っていただけます。 事務局による補助金相談コーナーも引き続き実施します。

平成22年度市民事業交流会 アンケート集計結果

今後の取組の参考とするため、交流会に参加いただいた方々にアンケートをお願いしたところ、多数のご回答をいただきました。集計結果は次のとおりです。

■回収したアンケート数…16枚（内訳：平成22年度補助事業者13枚、その他の団体1枚、未記入2枚）

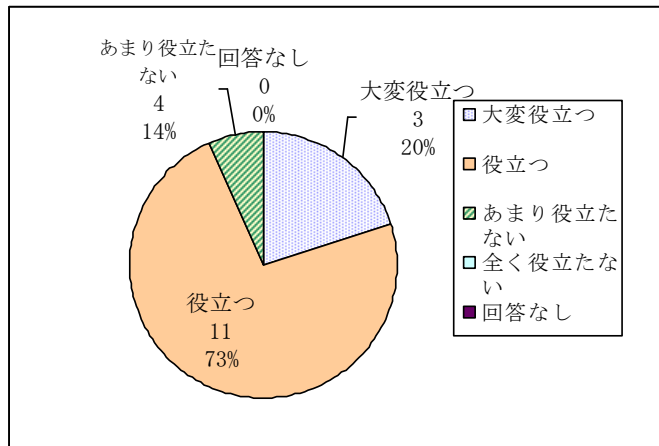
Q1 本日の交流会はいかがでしたか。



主な意見

- 満足できた点
 - ・他団体の活動状況がわかった
 - ・活動していく上での励みになった
 - ・他団体と課題を共有し合えた
- 不満だった点
 - ・報告時間が少なく、情報交換が十分にできなかった
 - ・活動状況（補助対象事業の計画に対する実績）がわからないものが多い

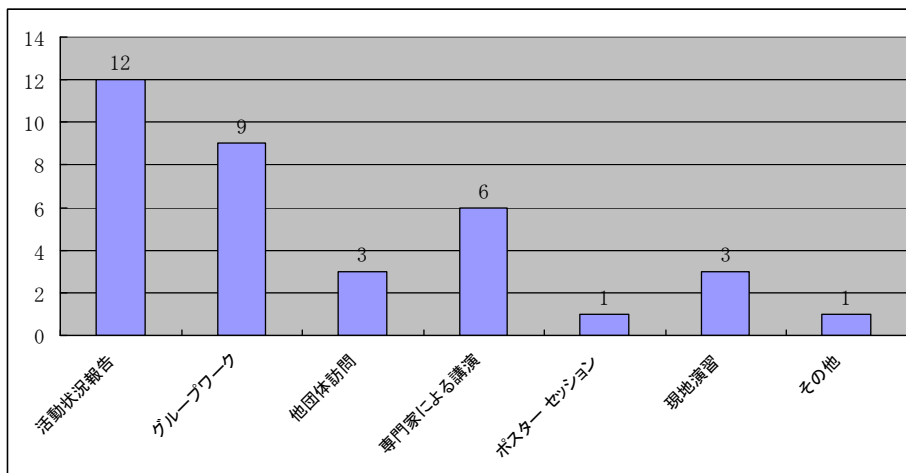
Q2 本日の交流会は今後の活動に役立ちますか。



主な意見

- 良かった点
 - ・他団体の問題点がわかり、所属団体との比較ができた
 - ・多くの団体の人達の活動状況を知ることができた
 - ・問題の共有化ができた
 - ・チェーンソー作業は、ボランティア保険の対象にならないことがわかった
- 悪かった点
 - なし

Q3 今後、交流会を開催する場合、どのような内容を希望しますか（複数回答可）



Q4 その他、ご意見・ご要望がありましたらお聞かせください。

- ・交流会は1～3月の開催を希望
- ・今回のような日程で十分である
- ・経費科目の運用拡大を希望
- ・水源環境の対象範囲を広げるべき
- ・5か年の事業ではなく、中・長期的な計画を
- ・事業制度への問い合わせ等（市町村）窓口の設置を希望
- ・活動状況報告会である為、団体の助成事業以外の報告は不要